

令和 6年度 綾瀬市立綾瀬小学校 学校関係者評価報告書(様式)

<p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p>	<p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p>
<p>学校教育目標</p>	<p>心豊かで たくましく生きる子 ・真心と 思いやりのある子 ・健康で 粘り強い子 ・よく考え 進んで学習する子</p>
<p>学校経営方針 (グラントデザイン)</p>	<p>令和6年度 綾瀬市立綾瀬小学校グラントデザイン</p> <p>市めざす子ども像: 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた綾瀬の子ども</p> <p>学校教育目標: 心豊かで たくましく生きる子 ・真心と 思いやりのある子 ・健康で 粘り強い子 ・よく考え 進んで学習する子</p> <p>国・県: 「生きる力」の育成 ・「心ふれあう しなやかな 人づくり」</p> <p>育てたい資質・能力: 〇聴いてつなげる力 〇自分の考えを持ち表現する力 〇チャレンジする力</p> <p>重点目標: 自分ごととしてとらえ、表現できる子</p> <p>保護者 地域 教師の願い / 児童の実態</p> <p>あはつあふれる / 時間を守る</p> <p>安全・安心な あたため学校 【支援教育の充実】 ・コーディネーターを中心とした支援体制の充実 ・自己肯定感を高め、一人一人の居心地のよい環境を創る 【道徳教育の推進】 ・考え躊躇する授業づくり 【安全指導の充実】 ・「自分の命は自分で守る」指導の浸透 【特別活動の充実】 ・子どもの想いを大切に創りあげる 【児童指導の徹底】 ・子どもに寄り添ったあたたかい児童指導</p> <p>確かな学びを はぐくむ学校 【基礎・基本の定着】 ・主体的・対話的で深い学びの実践 ・「聴く」「話す」の重視 ・家庭学習の習慣化 ・読書活動の充実 【校内研究の充実】 ・「生活科、総合的な学習の時間」を通して「地域のひと・もの・ことと関わる単元づくり」に取り組む 【体づくり】 ・基本的生活習慣の徹底 ・生活リズム大作戦 【ICT 機器の有効活用】 ・タブレットの効果的な活用</p> <p>信頼される学校 ・「チーム綾小」としての意識をもつ ・危機管理意識の徹底 ・「相談・連絡・報告・確認」の徹底 ・グループ組織の活性化 ・カリキュラム・マネジメントの推進 ・専門職や外部機関との連携 ・「地域とともにつくる学校」の展開 ・教職員の働き方改革の推進</p> <p>ユニバーサルデザイン 教育理念 自他尊重 「自分も大切 相手も大切」 多様性を認め 互いの個性を尊重し 他者と協働する力をはぐくむ インクルーシブ教育の推進</p>
<p>今年度の重点目標</p>	<p>自分ごととしてとらえ、表現できる児童の育成 ・聴いてつなげる力 ・自分の考えを持ち表現する力 ・チャレンジする力</p>

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「自分で考え行動する力」を育てるために、学習活動に取り組んでいる。	90%近くの児童が「授業中、進んで学習に取り組んでいる。」と回答しています。さらに意識的に思考力・判断力・表現力を磨くことができるような授業展開の工夫や教職員への研修を実施するとともに、保護者とも連携して、家庭においても協力していただけるよう働きかけていきます。また、地域教材の積極的な活用を推進し、児童や学校と地域とのつながりを深められるよう努めます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動をはじめ、学校生活にめあてを持って毎日を過ごしている。	1の設問の視野をより広げ、学校生活全般についての質問としています。児童・保護者共に、積極的の回答が8割を超えています。今後も学校行事等を含むカリキュラム全体を見直して、育てたい力をより効果的にはぐくめるよう教育課程の編成に努めていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「自尊尊重」の学校づくりに取り組んでいる。	昨年度以上に積極的の回答が多い結果となりました。「真心と、思いやりのある子」をはぐくむために、道徳教育や特別活動の充実を力に注ぎ、引き続き「自尊尊重」の学校づくりに取り組めます。互いに安心して過ごしやすい環境となるよう努めていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	通常の学校生活が稼働となり、全校児童が集まったの集会や発表の場が多く実施できました。認められる場が増えたことにより、今年度も多くの児童が「学校は楽しい」と評価しています。児童が「楽しい」と感じるためには、学校・教室が居心地の良い場であることが大切です。他者とのつながりを大事にし、学校生活を誇れるものにしていきます。そのために、家庭・地域との連携を図り、引き続き授業改善や特別活動の充実を力に注いでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの未然防止、早期発見・早期対応のための取組を行っている。	いじめの早期発見・早期対応に加え、すべての児童に寄り添い、普段から観察を怠らないこと、些細な変化であっても見逃さないことを意識しながら指導にあたり、いじめの「未然防止」に取り組んできました。児童指導・支援グループを中心に、学校全体で教職員の意識を高めていくとともに、保護者との連携を大切にして児童の人間関係づくりを支えています。
6 保健管理	学校は、「健康で、粘り強い子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	教職員が、健康観察や健康指導を継続するとともに、規則正しい生活を促すための「生活リズム大作戦」や自分の健康を意識を持たせる「健康カレンダー」に取り組んでいます。また、「保健だより」などでは、学校の健康に関する様子を伝え、家庭との連携をとりながら取組の充実を図っています。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	来年度も、より実践的な安全行事を計画し、児童が自分の命を守る力を付けられるよう指導を重ねます。本校学区は交通量の多い道路が多いため、登下校の際は見守りなど、児童の安全確保のために地域の方が積極的に活動してくださっていますが、そういう方々と連携しながら、一人ひとりが交通安全への意識をさらに高めるようにしていきます。施設・設備については関係機関とも連携し、早急な対応を心がけます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫を行っている。	学校全体としての支援の体制は、充実したものになってきています。今後も児童指導・支援グループを中心に児童一人ひとりや保護者の教育的ニーズに応じた対応が組織的にできるようにしていきます。児童の居場所づくりのためにも、サポートルームの効果的な運営活用をSRAと共に考えていきます。また、今後も授業や学級経営の場面における支援の仕方などインクルーシブ教育についても職員研修を進め、全職員で足並みを揃えた授業を心掛けて取り組み、児童一人ひとりの実態に応じた教育活動の必要性を再確認します。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	今年度も、「自尊尊重」の学校づくりに取り組み、「自分ごととしてとらえ、表現できる子」をはぐくむという重点目標に向かって、4つのグループの各担当や担任・学年等が取組を進めました。来年度も、カリキュラム・マネジメント会議を通して職員間で共有を図った育てたい資質・能力につながるグランドデザインの具現化を図っていきます。また運営組織の見直しなどを行うことで働きやすい環境作りにつなげ、職員一人ひとりがゆとりをもって教育活動を行えるようにしたいと考えます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	総合的な学習の時間・生活科を中心に据えたカリキュラム・マネジメントに取り組みながら、さらにカリキュラム・マネジメントへの理解を深め、より効果的・効率的にはぐくみたい力が身に付く教育課程の編成を心がけます。また、授業改善の視点をもって日々の授業に取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のために工夫している。	引き続き一人ひとりの児童理解に努め、児童の主体的な活躍の場を多く設け、自己肯定感を高める工夫をしていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	来年度も今年度の取組を生かし、教育活動の見直し等を進めていきます。「学校・学年だより」や「学級懇談会・個別面談」等の充実を図り、引き続き保護者や地域の方々に教育活動を伝える努力をしていくとともに、地域ボランティア等との連携を推進していきます。また、コミュニティ・スクールでは、学校運営協議会を定期的に開き、熟議等で教育課題等について協議し、地域とともにある学校を目指していきます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

○グランドデザインから

- ・「聴くこと・話すこと」に重点を置いて指導してきた。低学年から、反応しながら聴く等、児童に聴く姿勢が身についてきている。
 - ・サポートルームの活用によって、学校に登校できるようになった児童・サポートルームから教室に入れるようになった児童が増えた。
- ⇒児童だけでなく、保護者へのサポートも大切である。当事者同士意見交換できる場や相談できる場を紹介・周知していくことも必要である。

○学校評価から

・スクールアンケートについて

今年度から「学校は楽しくない」と回答した児童だけでなく、「あまり楽しくない」と回答した児童にも聞き取りをし、児童の心の揺れや不安等にも丁寧に寄り添うようにしてきた。

⇒いじめについて耳にすることもある。引き続き丁寧な対応をお願いしたい。

・学校の取組・児童の様子を家庭に伝えていく工夫について→来年度授業参観の方法を検討中。

⇒便り等で発信はされているが、なかなか伝わりづらいのが現状。見に来てもらわないことには保護者も分からない。授業参観の方法を工夫し、保護者が気軽に来校できる機会を増やしていくことはよいと思う。また、懇談会の内容についても、保護者が知りたいこと等に合わせて考えていってもよいと思う。

○学校運営協議会について

- ・教職員との意見交換の場を2回に増やし、人材等の紹介や学習等のサポートをしていきたい。
- ・人材バンクの作成や各自治会等を巻き込んで活動等していきたく考えている。